

# 新規フェロモン剤：シナンセルア剤（スカシバコン L）の特徴と使い方

信越化学工業株式会社 ない とう たか ゆき  
内 藤 尚 之

## はじめに

樹幹害虫コスカシバとヒメコスカシバを対象としたフェロモン剤としてチェリトルア剤（商品名：スカシバコン / 農薬登録 1988 年）を上市してきたが、2012 年 3 月 21 日付けで、改良剤であるシナンセルア剤（商品名：スカシバコン L）の農薬登録を取得した。

新剤の主要な改良点は有効期間の延長である。近年の地球温暖化の影響によりコスカシバの発生期間が長期化しており、旧剤では本種の発生全期間をカバーすることが困難になってきていた。シナンセルア剤は、これまでに蓄積した技術を応用し 7 か月間の有効期間を持たせることに成功した。さらに、コスカシバの雌から新たに検出されたフェロモン成分を添加するなどの改良を加え、チェリトルア剤からの効果アップを狙っている。

以下に本剤の特徴と使い方を紹介する。今後の IPM に貢献する一助となれば幸いである。

## I 有効成分と剤型

### 1 有効成分、物理化学的性状

一般名：シナンセルア (Synanthelure)

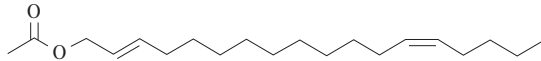
商品名：スカシバコン L

(E,Z)-オクタデカ-2,13-ジエニル=アセタート (3.5%)、(E,Z)-オクタデカ-3,13-ジエニル=アセタート (42.9%)、(Z,Z)-オクタデカ-3,13-ジエニル=アセタート (40.9%)、以上 3 成分の混合物に安定剤等を 12.7% 加えたものである。常温では淡黄色澄明の液体であり、わずかなハーブ臭がする。

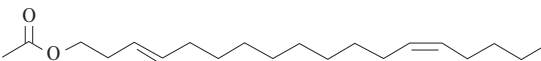
(E,Z)-オクタデカ-2,13-ジエニル=アセタートは、コスカシバ雌の性フェロモン腺より検出され、新たに添加された成分である。虫が交信に利用している天然のフェロモンに近づけることにより、効果のアップや抵抗性発現を抑える効果が期待される。

構造式：

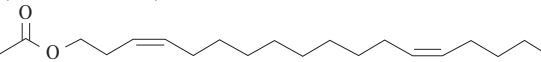
(E,Z)-オクタデカ-2,13-ジエニル=アセタート



(E,Z)-オクタデカ-3,13-ジエニル=アセタート



(Z,Z)-オクタデカ-3,13-ジエニル=アセタート



### 2 剤型

二連の細管の片側に約 80 mg の有効成分シナンセルアが充填され、もう一方にアルミ線を内封する（図-1）。チューブ長は 20 cm である。有効成分はチューブの表面から徐々に放出される。

## II 安全性

シナンセルア剤は本剤の剤型・使用方法から見て曝露量は極めて低く（誘引剤等を封入された状態で使用する）人畜に対する安全性は高いので普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）に分類される。水産動植物に対しては、本剤の登録に係る使用方法では該当されない。

### 1 人畜毒性（原体）

急性経口毒性（ラット）：LD<sub>50</sub>（雌）> 2,000 mg/kg

急性経口毒性（マウス）：LD<sub>50</sub>（雌）> 2,000 mg/kg

皮膚刺激性（ウサギ）：中等度の刺激性有り

変異原性（ネズミチフス菌）：陰性

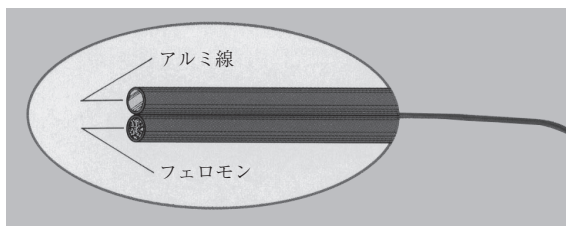


図-1 スカシバコン L の剤型

二連のポリエチレンチューブにアルミ線と合成フェロモンが内封されている。

Characteristics of a new mating disruptant, Synanthelure (Sukashiba-con-L). By Takayuki Narro

(キーワード：コスカシバ、ヒメコスカシバ、フェロモン、交信攪乱)